



今回、最優秀賞を受賞したのは上野小6年の松岡晴香さんでした。松岡さんは、2月2日(土)10時から添田町で開催される田川地区大会で、福智町代表として発表します。

市場小6年

植原 結さん

Title 「私の夢で…」



絶対に叶えたい「夢」はありますか？私にはあります。それは、病院関係の仕事をする事です。この夢のきっかけは、看護師である私の母です。母は、仕事から帰ってくると私によく仕事の話をしてくれます。しかし、時々「あんたと同じぐらいの子が事故でけがをしていたよ」と私と同じぐらいの人の話をするとき、母はちょっとだけつらそうに見えました。私は、母の話を聞いていると母の仕事の大変さや大切さを強く感じるようになりました。そんなとき起こったのが、2011年3月11日の東日本大震災です。この震災で多くの命が奪われました。全国からたくさんの医者、看護師、ボランティアが避難所に駆けつけ、働いているところをテレビで見ました。それを見たとき私は、「すごいな。私もこんな風にいるんな人の命を助けたい」と強く思うようになりました。私が大人になって、今もっている「夢」のように病院の仕事に就くことができれば、世界の人々の役に立てるようになりたいし、一人でも多くの命を助けたい。私が私の夢を叶えていくことで、たくさんの人たちに笑顔が広がればいいなと思います。そして、未来の今の私ぐらいの人が事故なんかで自分の夢をあきらめなければいけないようなことが起こらないように、その人が夢を持ち続けることができるように、小さな私の力を役立てたい。だから、私は私の夢を追いかけようと思います。私の夢で、みんなに笑顔が広がるように。

「すべての人が生きていく中で嫌いな思いをせず、楽しく生きていければどんなに幸せだろうか」そのために私たちができることは、「あいさつ」や「思いやりのある言葉」で、周りを幸せにできるのではないかと私は考えています。昨年の始業式に校長先生が「日本一あいさつのできる学校にしたい」と私たちに訴えました。私は児童会の計画委員だったので、校長先生の思いを全校で取り組むため、「毎日進んで気持ちのよいあいさつのできる日本一の学校にしよう」というスローガンを掲げて、校門の前で一礼や、あいさつ運動を行っています。また、浦田町長も「あいさつ日本一の町」を目指していることが分かり、私たちはあいさつ日本一の宣言文を持っていきました。私は、伊方小が町と同じ考えをもち、役に立とうと努力していることは素敵なことで、伊方小が起爆剤となって町民に発信できることが嬉しいです。しかし、「あいさつをすることで、どんなよいことがあるのだろうか」と思う人もいるでしょう。ならば、あなたが初めて福智町へ来たと思ってください。町で出会った知らない人に「こんにちは」とか「よく来たね」とあいさつされれば、当然嬉しい気持ちでいっぱいになりますよね。そうすれば、「また来たい」と思えるはず。あいさつをするとその人だけでなくその周りの人へ笑顔の輪が広がり、優しい気持ちでいっぱいになり、した人もされた人も嬉しくなれるのです。

伊方小6年

蔣野 あかりさん

Title 「あいさつで世界中を幸せに」



上野小6年

松岡 晴香さん

Title 「自分の未来を大切に」



みなさんは、たばこや薬物のこわさを知っていますか。私は、たばこや薬物乱用の害について、薬剤師からとても詳しい話を聞きました。たばこの煙には、私たちの健康に害のある物質がとても多くふくまれているそうです。たばこを吸わない私たちもふつうに呼吸することで、知らず知らずのうちに肺の奥まで有害物質を吸い込んでしまっているのです。家族の誰か一人でもたばこを吸う人がいれば、家族全員が健康を害するのです。とても怖く悲しいことだと思います。日本では、未成年者の喫煙は法律で禁止されています。しかし、病気のことや吸わない人への影響もあるので、大人になっても、誰一人としてたばこを吸わない社会になって欲しいと思います。たばこの他にも、世の中には人間の心と身体をむしばむ薬物が、たくさんあります。このような薬は、たばこより依存性が強く、一回くらいならと思って体に入れると、やめられなくなるという恐ろしいものです。どうして体をぼろぼろにし、家族を悲しませ、人生を破壊するようなことをするのでしょうか。私には、とても理解ができません。私は、これから先、たばこやその他の薬物の誘惑があっても、絶対に断ります。そして、友達が手をだそうとしたら「やめよう」とはっきり言い、薬物のこわさや悲しさなどを話し、説得します。「自分の未来は自分で守る」このことをしっかり考えて行動していきたいです。

※各発表者の文章は原文のままではなく、主張の主な内容を要約して掲載していますのでご了承ください。

私の学校では、読書タイムがあります。私は以前、読書がきらいでした。しかし、今は読書が大好きです。私が読書を大好きでいられるのは、読書タイムで、とてもおもしろい本を見つけることができたからです。それに、朝の読書タイムがある日は、落ちついて一日をスタートできます。私は、不思議に思い、様々な資料からこのことについて調べてみました。すると、「落ち着いて一日がスタートできる」という効果がでた学校が、他にもたくさんあることが分かりました。私は本が好きなことから、ページ数の多い本を読むようになりました。すると、教科書の文章がスラスラ読めたり、文章を理解するスピードが速くなりました。私は今では国語が好きです。国語は、すべての教科を学ぶ上での基礎になるのだと思います。そのためには、読書が大切です。読書をするによって、思考力が身につきます。文章を読むことで、その文章と自分の知識や経験をかさね、自分なりに文章を理解します。さらに、人間が生きていくうえで大切な力は、想像力や論理力です。読書をするによって、想像力や論理力などの人間が生きていくうえで大切な力をみがいたり、つけたりしてくれます。読書を続けることによって、思考力や想像力、論理力など、これからの私たちに必要な力がみがかれていくのだと思います。だから読書は、私たちにとっていつになっても欠かせない、大切なものなのです。

弁城小6年

香月 天音さん

Title 「読書の大切さ」



金田小6年

岩崎 郁加さん

Title 「命どう宝」



『命どう宝』という言葉を知っていますか。沖縄の方言で、「命こそが宝物」という意味です。私は、この言葉が大好きです。私は、「少年の翼」で沖縄に行き、そこで沖縄戦や平和について学びました。アメリカ軍が沖縄に上陸し、住民を巻き込んだ激しい戦いとなって、追い込まれた人々や「ひめゆり学徒隊」も自決に追い込まれたそうです。私は、言葉にできないくらい悲しい気持ちになりました。生き残った人の中には、「語り部」として戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えている人もいます。私は、その「語り部」の話をただ聞くだけでなく、語り継いでいかなければならないと思いました。また、「沖縄は小さい島なので、被害も小さかったのではないか」という意見もあります。しかし、20万人以上もの尊い命が奪われ、沖縄本島は地形が変わるほどの銃撃を受けたのです。大きな大陸だったら、戦争をしてもいいというのではなく、どんな場所でも、戦争は許されないので、戦争という手段は、人の心の中にあってはいけないし、世界からも消えなければいけないものだと思います。私たちができることは「友だちとケンカをしても暴力をふるわない」、「いじめや差別をしない」など、身近なことから始めればいいと思います。『命どう宝』命こそが大切だということを、私だけでなく、日本、いや、世界中の人々が胸に刻み、平和な世の中をつくらしていきたいです。

第7回福智町少年の主張大会／福智町青少年育成町民会議主催

12月9日に公民館金田分館で開かれた「少年の主張大会」。

町内全8校の代表者が、壇上で堂々と自分の夢や気持ちを表現しました。

ここでは発表を紹介し、福智の子どもたちの想いに触れてみたいと思います。

届け、私たちの想い。

